

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	河本 信雄
研究テーマ	田中久重の生涯と久重が手掛けた技術の歴史。特に佐賀藩出仕時代における事績。
研究概要	江戸時代後期から明治初期にかけて、職人・技術者・起業家として活躍した田中久重の生涯は、その全てが明らかになっているとはいえない。久重は幕末期、佐賀藩に出仕し電信機の試作、蒸気船の製造などに携わった。また最新式の施条後装砲の試作にも携わったとされているが、不明な点が多い。この二つのことを調査研究し明らかにしていく。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2017 年度から上述の研究テーマに取り組んでいる。2018, 2019 年度には研究成果として、久重が佐賀藩で製造に携わったアームストロング砲に関する論文「幕末佐賀藩におけるいわゆるアームストロング砲の製造をめぐる」(一)・(二) (『福岡地方史研究』第 56・57 号) を発表した。同論は継続して書き続ける予定にしており、(一) (二) は全体の序章 (実態とは異なるア砲の過大評価について述べた) にあたる。2020 年度は第一章第一節にあたる (三) を執筆した。同章は当時のア砲を研究するにあたっての問題点を述べており、第一節では幕末・明治初期の史料類における、「鉄」を読み解く際の問題点を述べた。また、同章第二・三節にあたる (四) (五) (六) を書き進めた。当然ながら、これに必要な史料文献の調査、収集、解読を行った。加えて、所属している日本銃砲史学会の会員との交流を通じて、大砲製造の基礎となる知識の習得に努めた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>①「国家百年の計」『福岡地方史研究』第 58 号、pp161-162、福岡地方史研究会 (2020 年 9 月)</p> <p>②「近現代史の人物史料情報 河本文一」『日本歴史』4 月号、pp. 77-78、日本歴史学会 (2021 年 4 月)</p>
3. 今後の課題	<p>国内の文献においては、アームストロング砲に関する記述に誤記がある、また製造に関する記述がほとんどない。このため、海外の史料・文献にあたる必要がある。だが、海外の文献ですら誤記がある (これらは第一章第二節にて述べる)。ゆえに誤りを取り除き、実態を解明していくことが課題である。第一章第三節では先行研究について述べる。これ続く第二・三章にて、佐賀藩は製造したか／しなかったか、製造する能力があったか／なかったか、について述べる予定である。これらのことを、海外のものも含めて史料・文献から解き明かすことが課題である。</p>